



番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしや
11	わたのはらやそしまかけてこぎいでぬと わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと あまつかぜくものかよいじふきとじよ	ひとにはつげよあまのつりぶね 人には告げよあまのつり舟 おとめのすがたしばしとどめん	さんぎたかむら 参議篁 そうじようへんじよう
12	天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ つくばねのみねよりおつるみなのがわ	乙女の姿しばしとどめむ こいぞつもりてふちとなりぬる	僧正遍照 ようぜいのいん
13	筑波嶺のみねより落つるみなのがわ みちのくのしのぶもじずりたれゆえに	恋ぞつもりて淵となりぬる みだれそめにしわれならなくに	陽成院 かわらのさだいじん
14	陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに きみがためはるののいでてわかなつむ	乱れそめにし我ならなくに わがころもでにゆきはふりつつ	河原左大臣 こうこうてんのう
15	君がため春の野に出でて若菜つむ たちわかれいなばのやまのみねにおうる	わが衣手に雪は降りつつ まつとしきかばいまかえりこん	光孝天皇 ちゅうなごんゆきひら
16	立ち別れいなばの山の峰に生ふる ちはやぶるかみよもきかずたつたがわ	まつとし聞かば今帰り来む からくれないにみずくくるとは	中納言行平 ありわらのなりひらあそん
17	ちはやぶる神代も聞かず竜田川 すみのえのきしによるなみよるさえや	からくれないにみずくくるとは ゆめのかよいじひとめよくらん	在原業平朝臣 ふじわらのとしゆきあそん
18	住の江の岸に寄る波よるさへや なにわがたみじかきあしのふしのまも	夢の通ひ路人目よくらむ あわでこのよをすぐしてよとや	藤原敏行朝臣 いせ
19	難波潟短き蘆のふしの間も わびぬればいまはたおなじなにわなる	逢はでこの世を過ぐしてよとや みをつくしてもあわんとぞおもふ	伊勢 もとよししんのう
20	わびぬれば今はた同じ難波なる	みをつくしても逢はむとぞ思ふ	元良親王